

研究ノート

英語の授業を活気づけるアクティビティー 4

—中学校3年生で習う文法編—

磯野 徹

要 旨

教職科目の英語科指導法 I¹を担当し始めてから9年がたち、その授業の中で発表された興味深いアクティビティー案を、中学校1年生で習う文法編 (2010)、Speaking Plus 編 (2012)、中学校2年生で習う文法編 (2013)、と過去3回に分けて紹介してきた。

上記の中で述べてきたことの繰り返しになるが、英語科指導法 I では、愛知県内の中学校で使用されている教科書（主に New Horizon）を用いて、学生たちに実際に模擬授業をさせている。受講する学生の多くは教員志望の国際コミュニケーション学部英語学科の2年生で、大勢の生徒を前に授業をすることはもちろん、授業案の作成等、今までほとんどしたことがなかったことをこの授業の中で経験させている。未経験な部分を少しでもサポートする為、学生を二人一組のグループにし、担当教員である私も含めた三人で授業案を事前に協議することを義務付けている。当然、1回の面談でGOサインが出ることはほとんどないので、2,3回の面談を経て、ようやく模擬授業の発表にこぎつけることになる。

1回の模擬授業の発表時間は、イントロ、模擬授業、質疑応答等全て含めて25分ほどとかなり短い為、学生には、文法説明が中心の授業案かアクティビティーが中心の授業案か、どちらかに絞ったものを選択させている。おおまかな割合で言うと、最近では6:4で文法説明を中心とした授業案を考えてくる学生が多いのだが、中学校3年生の範囲に入ってくると、複雑になってきた文法事項の説明にチャレンジしたいという挑戦心からだろうか、その割合の差はさらに開いて、7:3くらいになり、発表されたアクティビティー案は他の学年のものと比べると少ない。今回は、その発表数としてはかなり少ないものの中から、中学校3年生で習う文法項目を教える際に役に立ちそうな興味深いアクティビティー案を4つ紹介する。

キーワード：英語科教育法，中学校3年生の英語授業，アクティビティー，受動態，現在完了形，分詞，関係代名詞，後置修飾

1. 中学校3年生で習う文法事項

東京書籍発行のNEW HORIZON 3の場合、中学校3年生で習う新たな文法事項は、「受動態」、
「現在完了形」、
「分詞」、
「関係代名詞」である。今回はこのそれぞれの文法項目を取り扱う授業を行う際に役立ちそうなアクティビティを紹介していくことにする。今までのものと同様、アクティビティ発案時のポイントは、生徒に発言の機会を多く与えて表現の定着を図ることと、可能であれば教科書に載っている文をただ繰り返すだけではなく自発的な発言を促すことである。

2. 「受動態」の学習1 - 未来の発明品を英語で紹介する²

受動態は、NEW HORIZON 3では、Unit 1で取り扱われている。今まで文章に動詞は一つと教えられてきた生徒が多い中で、「be 動詞」と「動詞の過去分詞形」と、一見すると2つの動詞が同時に出てきているように見える為、ここで躓く生徒も多いと思われる。このことに関する文法説明に加えて、級友と話しあったり、何度も英語の受身形を使わせるアクティビティを通して、表現の定着を図りたい。

[概要]

このアクティビティは、NEW HORIZON 3の p.10に載っている、“Multi Plus 1 - わたしの日本文化紹介”で行う作業をベースにしている。元々教科書に載っている作業では、日本の伝統的な品物を外国の人に紹介する、という設定において、“It is called ~.” “It is used when ~.”という受動態の文を使わせることを目的としている。

これはこれでよく考えられた作業であるが、今回紹介する学生たちは、この作業をよりクリエイティブで意見が活発に飛び交い、また他のグループの発表を聞いていても面白いものにしたと考え、未来の夢の発明品をグループで考案し、それを上記の受動態の構文を使って紹介する、というアクティビティを考えてきた。

[指導]

- (1) 教科書の p.10に載っている、“It is called a Yunomi.”と “It is used when you drink tea.” の2文を用いて、受動態の構造を復習する。
- (2) 生徒を3~5人一組のグループに分け、今日は皆に未来の発明品を考案してもらい、それを英語で発表してもらおう旨を伝える。

- (3) グループワークを始める前に、教師は自分が考えてきた発明品の例、もしくは実際に100年ほど前の人が想像した未来の発明品を生徒に紹介する。この際、教師は発明品の名前だけを生徒に教え、用途・使用方法に関してはグループで相談させ、発表させる。
- (4) 生徒たちは、グループで絵を描く担当や文を書く担当を決め、未来の発明品を考える。書く文は、1. 呼び名 (It is called ~.), 2. いつ使うのか (It is used when ~.), 3. どのように使うのか、の3文である。但し、3に関しては、生徒のレベルに応じて日本語でも可とする。

表



裏

- 1 It is called a “yunomi.”
- 2 It is used when you drink tea.
- 3 お茶を注いで使います。
(日本語で)
グループ番号：10

- (5) 発表するグループは、まず1の呼び名だけを発表し、他の発表を聞いているグループは2と3について考える。その後、発表するグループが2と3を発表する。発表中、聞いているグループは、発表された内容をワークシートに記入していく。
- (6) 最後に、最も面白い発明品を発表したグループを決める。

今回の発表では、一工夫加えるだけで、やること自体は同じでも、生徒のアクティビティーに対する態度がここまで活発になる、ということを再認識させられた。今回の模擬授業で発表されたものは、「寝ている間に自動的に化粧をしてくれる装置」とか「寝ている間に教室まで運んでくれる布団」とか、大学生が考えつきやすいものが多かったが、実際に中学生に考えさせると、また違った傾向が出てきて面白いと思われる。

3. 「受動態」の学習2 - スポーツの説明を通して³

ここで紹介するアクティビティーは、教科書のp.4で行われる“Listen”と“Speak”のパートで行われる問題を、ペアで行うクイズ形式のアクティビティーにしたものである。

[準備]

二人一組のペアに1枚ずつ、参考資料1のような色々なスポーツの絵が描かれているイラストシートを準備する。加えて、各ペアに、イラストシートに載っているスポーツの説明が書かれた下記のようなカードを4枚 (Soccer, Baseball, Table tennis, Sumo) を1セット配布するので、必要なセット分用意する。

Baseball

1. It is played in America and Japan.
2. Nine players play it.

受身形に → _____

[指導]

- (1) 受動態の文法の復習をした後、隣同士でペアを作らせ、それぞれに上記のイラストシート1枚とカードセットを配布する。
- (2) 1人の生徒はカードセットの中から1枚選び、記載されている2つの文をヒントとして読み、聞き手の生徒はどのスポーツの事を説明しているのか当てる。ただし、読み手は、1つ目の文は初めから受動態で書かれているのでそのまま読めばいいが、2つ目の文は能動態で書かれている為、受動態にしてから読む必要がある。
- (3) 聞き手の答えが当たっていた場合は、イラストシートにチェックを入れて、役割を交代し、全て終了するまで繰り返す。

受動態を自分で作らせて、それを口に出して言わせる、という目的には合致したアクティビティーだが、出す問題が簡単すぎてクイズになっていないため、可能であれば複数人数を1グループにして、カルタのように早取りに勝負にした方がアクティビティーとしては機能するかもしれない。

4. 「現在完了形」の学習⁴

Unit 2 では現在完了形の継続を表すもの、そして Unit 3 では経験と完了を表わすものが登場する。日本人にはすんなりとは理解しにくい時制の為、現在完了形に付随する語句 (since, ever, never, just 等) と共に、何度も繰り返し使わせることによって表現の定着を図りたい。今回は、現在完了形の経験を表すものに焦点を絞ったアクティビティーを紹介する。

[準備]

参考資料2の様な、4×4のマスに様々な地名、スポーツ名、楽器名を記したビンゴシートをクラスの数分用意する。時間が許す場合は、空白のシートだけを準備して、生徒自身に決められた単語の中から好きなマスに自由に記入させてもいいだろう。

[指導]

- (1) 現在完了形の文法説明をした後、ビンゴシートを配布する。そしてクラス全体で、次々とペアの相手を変えながら行うアクティビティーであることを周知する。
- (2) ビンゴシートの下に記載してある模範文と、ビンゴシートのマスに記載してある地名、スポーツ名、楽器名を1つ使って、ペアになった相手に“Have you ever ~.”と質問する。その質問に対して、“Yes, I have.”という答えをもらった場合はビンゴシートの該当するマスに○を付けることができるが、もらった答えが“No, I haven't”等の場合は付けることが出来ない。
- (3) お互い1回ずつ質問し終わったら、次のパートナーを探して場所を移動する。
そして、制限時間が来たら着席させ、一番多くビンゴの列を作れた生徒を確認する。

極めてシンプルなアクティビティーであるが、相手に何を質問するのかは自分で決められる為、ビンゴが出来そうなマスの質問をする学生もいれば、相手を見て、“Yes”と答えそうな質問を優先させる学生もいたり、中々活気づいたアクティビティーになった記憶がある。

クラス全体で動くアクティビティーでは、中々ペアの相手を見つけられなかったりして、アクティビティーの流れに乗れない生徒が何人か見受けられる。この場合、クラス全体で動くアクティビティーであっても、最初は隣同士で、次は前後同士でやらせた後に、自由に動き回らせ始めると比較的スムーズに行える事が多い。

5. 「分詞・関係代名詞」の学習 – Target は誰だ⁵

中学校3年生の終盤に、分詞 (Unit 5) と関係代名詞 (Unit 6) が登場する。NEW HORIZON 3 では、先行詞が人や物の場合はもちろん、関係代名詞 “that” が省略されているもの等、様々な例文がこの2つの Unit で登場するが、今回は先行詞が人の場合に絞ったアクティビティを紹介する。

[準備]

教員がアクティビティの前に見本として見せる為に、ある有名人について分詞・関係代名詞を用いた4文で説明された下記のようなカードと、生徒に配布する為の参考資料3のようなシートをグループ数分用意する。

Hideki Matsui

1. The target is a person living in America.
2. The target is a person who played baseball.
3. The target is a person who played in Major League Baseball.
4. The target is a person called “Godzilla”.

[指導]

- (1) 文法事項の説明を終了後、復習そして次に行うアクティビティのデモンストレーションを兼ねて、上記の文章を1～4 まで間隔をあけつつ教師が読み上げ、誰の事を説明しているのか生徒たちに当てさせる。
- (2) 次に、生徒たちを複数のグループに分け、各グループの中から target を1人選出させる。そして、参考資料3のようなワークシートにそって、その target を説明する文を各グループで作成させる。
- (3) 2グループがペアになり、先攻・後攻を決め、後攻のグループは1人1文ずつ、グループの中にある target についての文を相手チームに読み上げる。先攻グループは誰が target なのか相談して決め、それが当たっていれば1point。なお、用意された説明文全てを聞く前に答えられた場合は2 points 獲得できるが、間違えた場合は再び答えることはできない。

- (4) 先攻・後攻が終わったら、今度はペアとなるグループを変えて、同じことを繰り返す。
最後に、最も多くの point を獲得したグループの勝ち。

このアクティビティーに関しても、行っている事自体は非常にシンプルだったが、target となった学生がポーカークフェイスを保つのに必死の様子が場を盛り上げ、非常に教室が活気づいたアクティビティーの一つとして記憶している。なお、このようなアクティビティーを行うのが時間的に難しい場合は、各生徒に、自分の趣味等を4文ほど書かせ、それを教師が回収し、(1)で行ったようなクイズ形式にして、教師が誰の書いた文章を読み上げているのかをクラス全体で当てさせるだけでもいいだろう。

6. おわりに

今回のアクティビティーは、以前紹介したものと比べてシンプルなものばかりであるが、逆に言えば、短い時間と説明で行えるものばかりなので実用的といえる。文法説明を中心にした模擬授業に関しては、このような形で紹介することは中々難しいが、アクティビティーに関しては比較的容易なので、また機会があれば報告していきたい。

注

1. 2012年より科目名称変更。旧名称は授業構成法（英語）。
2. この授業案は、2014年の授業において、那須永理さんと石井洋平君によって発表された。
3. この授業案は、2011年の授業において、山本歩美さんと判治早矢香さんによって発表された案をもとにしたものである。
4. この授業案は、2007年の授業で、後藤はるかさんと鈴木則貴君によって発表された案をもとにしたものである。
5. この授業案は、2012年に遠藤亜里妙さんと奥村友美さん、2007年に木野綾乃さん、山下実穂さん、長井沙緒理さんによって発表された案をもとにしたものである。

参考資料・図書

- 磯野 徹 (2010) 「英語の授業を活気づけるアクティビティー－中学校1年生で習う文法編－」, 『言語と文化』 22号, pp.171-178。
- 磯野 徹 (2012) 「英語の授業を活気づけるアクティビティー 2－Speaking Plus 編－」, 『言語と文化』 26号, pp.79-92。
- 磯野 徹 (2013) 「英語の授業を活気づけるアクティビティー 3－中学校2年生で習う文法編－」, 『言語と文化』 29号, pp.39-50。
- NEW HORIZON English Course 3, 東京書籍, 2006.

参考資料1

Activity !

受動態で説明しよう！

【ルール】

カードに書いてあるイラストについて受動態を使って説明しよう！

カードには、下にある4つの中の1つのイラストとヒントの例文が書いてあります。

例文の *it* を主語にして受動態の文に言い換えてみましょう。

カードのイラストは自分だけが見て、ペアの相手は何について説明しているのか当ててみましょう。

【使ってみよう！】

ペアの相手の説明で答えが分かった時は… Is it _____?

正解の時… Yes! That's right. 答えが間違っていたら… No, it's not.

☆正解したら口にチェックしよう！



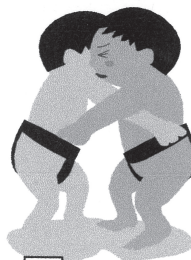
Soccer



Baseball



Table tennis



Sumo

参考資料2

Kyoto	badminton	volleyball	the guitar
Tokyo	baseball	Okinawa	soccer
Osaka	the drum	basketball	the trumpet
the violin	tennis	the piano	Hokkaido

場所

質問 Have you ever been to ~?

答え Yes, I have. / No, I haven't.

楽器 & **スポーツ**

質問 Have you ever played ~?

答え Yes, I have. / No, I have never played ~.

参考資料3

_____ さんの特徴

Target を説明する 1～5 の文章を完成させよう。

1. The target is a person who _____ .
2. The target is a person who _____ .
3. The target is a person who _____ .
4. The target is a person who has (long / medium-length / short) hair.
5. The target is a person who wears (色) clothes.

復習と例文

☆ 現在分詞 ... ing 形



The boy standing by the door is Mike.

★ 関係代名詞 who



The boy who stands by the door is Mike.